



2019 年 8 月 26 日

Audi R8 LMS GT3、鈴鹿 10 時間耐久レースで初優勝

- GT3 カーの世界一決定戦で、Audi Sport Team WRT が盤石の走りで、日本にて初優勝
- Audi Sport Team Absolute Racing が 7 位、日本の Audi Team Hitotsuyama は 17 位完走

8 月 23 日（金）～8 月 25 日（日）、鈴鹿サーキット（三重県 1 周 5,807m）で 2019 第 48 回サマーエンデュランス「BH オークション SMBC 鈴鹿 10 時間耐久レース」が開催されました。

「鈴鹿 10 時間耐久レース」は、昨年始まった GT3 カーの世界一を決める耐久レースです。世界 5 大陸をまたいで、年間全 5 戦で競われる「インターコンチネンタル GT チャレンジ (IGTC)」のアジアラウンドに位置付けられ、日本をはじめヨーロッパ、アジアなど世界各国から強豪チームが集結。10 時間を走行し、その走行距離の長さを競います。アウディ勢は Audi R8 LMS GT3 により、日本からは SUPER GT GT300 クラスで活躍する #21 Audi Team Hitotsuyama（アウディ チーム ヒトツヤマ）が、また海外からは #25 Audi Sport Team WRT と #125 Audi Sport Team Absolute Racing の計 3 チームが参戦しました。

今年アウディの RS モデルは、1994 年に初の Audi RS 2 Avant が登場して以来、生誕 25 周年。それにちなんで、Audi Sport Team WRT のマシンには、RS モデル 25 周年記念のロゴとカーナンバー 25 を配し、ボディは RS 2 Avant のイメージカラーである伝統のノガロブルーで彩っていました。一方、Audi Sport Team Absolute Racing のマシンは、ホワイトを基調に記念ロゴを配し、カーナンバーは 25 に 1 を加えた 125。Audi Team Hitotsuyama は、SUPER GT GT300 クラス参戦時と同じく 21。レギュラードライバーのリチャード ライアン選手と富田 竜一郎選手のコンビに加えて、ベルギー人ドライバーのアレッシオ ピカリエロ選手を加えての 3 人体制で 10 時間の耐久レースに臨みました。昨年のこのレースでは Audi Sport Team Absolute Racing が 3 位表彰台を獲得、Audi Sport Team WRT が 4 位、Audi Team Hitotsuyama が 8 位に入賞しており、今年のレースでも大いに期待が高まっていました。

土曜日、灼熱の太陽のもと、13 時公式予選がスタート。この鈴鹿 10 時間では、各チーム 3 名のドライバーがそれぞれ 15 分間ずつタイムアタック。そのタイムの合算により順位を決定し、トップ 20 台がポールポジションを競う最終予選 ポールシュートアウト に進む独自のルールが採用されました。#25 Audi Sport Team WRT はトップタイムをマーク。さらに、#125 Audi Sport Team Absolute Racing と #21 Audi Team Hitotsuyama、アウディで参戦する 3 チームすべてが ポールシュートアウト に進出を果たします。最終予選結果は、#25 が惜しくも 2 位、#125 が 7 位、#21 が 18 位からのスタートとなりました。

日曜日の決勝も 30℃に迫る気温のもと、午前 10 時レーススタート。#25 と #125 はレース序盤から耐久レースとは思えないほどのラップタイムで周回を重ねていきます。#21 は第 1 スティントのアレッシオ ピカリエロ選手が順調に順位を上げていたところ、途中接触事故によってピットスルーペナルティ課せられ、順位を大きく落としてしまいました。レース開始から 3 時間後には #25 がトップに、#125 は 6 位、#21 は 23 位につけていました。その後 #25 はトップを一度も譲ることなく盤石の走りを見せます。レース開始 8 時間後には、#25 と #125 のワンツー体制に、#21 は粘り強くは走り続け 17 位までポジションをアップしていました。レースは残り 1 時間を切り、#25 と #125 のワンツーでレースを終えられるかと思いきや、#125 が最終のドライバー交代時の給油トラブルによって大幅にタイムロス。順位を大きく落としてしまいました。午後 8 時レース終了、最後まで圧倒的な速さをみせた #25 Audi

Sport Team WRT が昨年の雪辱を晴らし、日本での初優勝を遂げました。#125 Audi Sport Team Absolute Racing は、最終ラップまで前を走る#35 号車を猛追、白熱のバトルを展開し大いに観客を沸かせましたが、最終的に惜しくも 7 位となりました。#21 Audi Team Hitotsuyama は、後半大きなミスもなく安定した走りで、17 位完走を果たしました。

Audi Sport customer racing 統括責任者 クリス ラインケ

「Audi Sport Team WRT は、巧みな戦術によってミスを避け、3 人のドライバーがすべてにおいて安定しており、速いラップタイムによって、スタート後 3 時間目から常にレースをリード。チャンピオンシップにおいて重要な意味をもつこの日本ラウンドで完璧なパフォーマンスを発揮し、勝利を収めることができました。今シーズンの IGTC 開幕戦は苦しいスタートとなりましたが、これでマニュファクチャラーズとしては 3 位のポジションにつけることができました。最終戦の南アフリカでは、年間タイトル獲得を目指します」

Audi Team Hitotsuyama チーム代表 一ツ山 亮次氏のコメント

「このレースは SUPER GT とは異なるピレリタイヤのワンメイクレースということもあり、Audi Sport からファクトリーカーと同じセットアップデータの提供を受け、予選はドライバー 3 人が安定したペースで 20 位以内に入ることができました。決勝は全体としてはいいペースで走ることができたのですが、第 1 スティントの接触によりペナルティを受けたり、その影響でタイヤの内圧が下がってしまうなど、タイムロスしたことが悔やまれます。やはり本国のチームはこのレースを熟知しており、またファクトリードライバーも R8 の扱い方をよく知っているということを実感しました。今回の知見を今後のレースに活かしていきたいと思います。次は SUPER GT のオートポリスですが、セットアップの方向性も定まってきているので、上位を目指していきます。」

予選が行われた 24 日、アウディ ジャパン株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：フィリップ ノアック）は、「鈴鹿 10 時間耐久レース」の舞台となった鈴鹿サーキットで、記者会見「Audi Sport conference SUZUKA 2019」を開催。フラッグシップスポーツモデル 新型 Audi R8、Audi R8 の V10 エンジン搭載モデルのデビュー 10 周年を記念した限定モデル Audi R8 Decennium（ディセニウム）、そして Audi A5 シリーズの中で最も高い人気を誇る 4 ドアクーペ Audi A5 Sportback をベースとした初の RS モデル、Audi RS 5 Sportback を発表。また、#25 Audi Sport Team WRT、#125 Audi Sport Team Absolute Racing と #21 Audi Team Hitotsuyama のチーム・ドライバー紹介も行いました。